

6.2 文化祭企画 「SSHへ行こう！！」

(1) 研究開発の課題（概要）

生徒が、参加した SSH 授業や SSH ワークショップで学んだ内容を、文化祭の生徒有志企画として、廊下でのパネル発表や理科室での実験体験として発表し、全校生徒や保護者に紹介した。この企画は平成 22 年から始めたもので、本年度が 3 年目になる。

(2) 研究開発の経緯

文化祭において特別な SSH 事業を実施することは従来はなかったが、平成 22 年より“科学を追究し楽しむ雰囲気”を校内に普及する目的で、本事業を展開することとなった。一昨年度の反省で、文化祭では気楽に体験できるブース企画が向いていることが分かったので、生物・化学・物理の各分野の実験体験の講座を実施した。

(3) 仮説（ねらい、目標）

ア SSH ワークショップの楽しさを伝え、ワークショップへに希望する生徒を増やす。

イ 校内に科学や技術に親しむ雰囲気を広げる。

ウ 保護者に SSH 事業への理解を広げる。

(4) 研究の方法・内容

ア 対象 全校生徒、教員、保護者

イ 内容（場所）、日時

(ア) SSH 実験体験講座（生物講義室） 平成 24 年 9 月 5 日（水）・6 日（木）

SSH 授業や SSH ワークショップで体験したいろいろな実験を、授業・ワークショップに参加した生徒や物化部・生物部の希望生徒と教員が協力して再現し、生徒や保護者を対象にブース形式で実験体験の講座を実施した。

- ・生物分野「錯視を体験しよう」
- ・化学分野「ニッケルメッキ～銅板にお絵かき～」
- ・物理分野「ミツバチの偏光板を作ろう」他
- ・生徒発表 イギリス研修

(イ) SSH の取組の紹介（生物講義室前廊下）

平成 24 年 9 月 5 日（水）・6 日（木）

SSH 授業・SSH ワークショップの様子や学んだ学習内容をポスター展示した。

(5) 検証（成果と反省）

今後の特別研究に向けて

本文化祭企画には多くの生徒や保護者が訪れ、広く SSH 事業を紹介することができた。講師を担当した生徒にとっても、人に教える事は理解する事よりもさらに進んだ高度な行為であり、他人に説明する事で理解がより進んだと思われる。また、このように生徒を講師とする企画は、生徒の意欲を引き上げる意味でも意義が大きいので、今後も進めていきたい。

文化祭では、多くのイベントが同時に開催されており、参加の対象となる生徒も多くの仕事に携わっているため、時間帯が合わずに、本 SSH 企画には希望していても参加できない場合がある。昨年度の反省から、ブース形式の事業を主体にしたことにより、多くの参加者で盛り上がる企画となった。

しかし、イギリス研修の生徒発表を昼の時間帯に設定したため、保護者の参加はあったが、聴きに来る生徒が少なかった。昼の時間帯を避けるなど、生徒の動きを踏まえた時間の配分を考えるべきである。



錯視体験する保護者



超伝導現象の演示実験